

こども病院では、病気を克服されたこども達を以前より診療させて頂いています。フォローアップ対象者の増加、治療経験者の成人期への移行を受けて、『成人移行期支援』を勧めていこうと考えています。

治療経験者の健康管理、晩期合併症の予防、早期発見、早期治療を目指す外来にしたいと思っています。

治療を経験されたこども達が、自分の病気を正しく理解し、きちんと説明できることが大切です。これが成人への「移行期」ということになります。

### 成人移行期支援について

晩期合併症は、治療後10年、20年、30年以上たってから問題になることも少なくないといわれています。晩期合併症のひとつひとつの頻度は決して高くはありませんが、2枚目の「晩期合併症と長期フォローアップ」に書いてある内容を読んで理解していただきたいと思います。そして、定期的なフォローアップを受けることにより、早期に発見して対処することが可能になります。また、できるだけそれらを予防するために工夫する必要があります。

### 治療経験者とそのご両親へ

こども達は、病気の診断と治療が行われた時点では幼く、病気や治療について理解が不十分であることが少なくありません。当事者であるこども自身に、どのような病気で、どのような治療を行ったのか、どのような将来の合併症のリスクがあるかについて十分な情報を提供し、治療の終わった後の通院の必要性について理解を得る必要があると考えています。

どのような治療が行われ、どのような合併症のリスクがあるのか等、情報提供を希望する方は、南外来スタッフにご相談ください。

また、ご本人に記入していただいた「質問紙」は、ご本人の理解を深めていくために使用させていただきますが、今後のフォローアップ体制を充実させるためにデータ処理、研究発表にも使用させていただくことがあります。個人が特定されるものではありません。ご理解の程よろしくお願い致します。

2013年7月16日 長野県立こども病院 南外来